

## 国立大学法人東京外国語大学学長の業務執行状況の確認結果について

令和4年3月24日  
東京外国語大学学長選考会議

東京外国語大学学長選考会議は、国立大学法人東京外国語大学学長選考会議規程第6条に規定する学長の業務執行状況の確認について、下記のとおり確認を行い、令和3年度の学長の業務執行状況は良好と判断した。

### 記

#### 1. 学長の氏名及び任期

- (1) 氏名：林 佳世子
- (2) 任期：平成31年4月1日から令和5年3月31日まで（4年間）

#### 2. 確認の時期及び方法等

##### (1) 確認の時期

令和4年1月26日（水）に学長選考会議を開催し、学長の業務執行状況の確認を行った。

##### (2) 確認用資料

- ①業務執行状況に関する資料
- ②アクションプラン 2021-2022  
「多様性を力に変え、多文化共生に寄与する東京外国語大学」の実現に向けて
- ③東京外国語大学統合レポート 2021
- ④令和2事業年度に係る業務の実績に関する報告書
- ⑤令和2年度に係る業務の実績に関する評価結果

##### (3) 意見の聴取

学長に対するヒアリング（令和4年1月26日実施）

#### 3. 確認の結果

##### (1) 要旨

東京外国語大学学長選考会議は、林 佳世子学長の業務執行状況について、本人からの意見聴取及び資料による確認の結果、学長として適切に業務を執行していると認める。

厳しい財政状況や様々な制約がある中で、学長が理想とする大学運営や改革に向けて、今後、更なるリーダーシップを発揮され、東京外国語大学が益々発展していくように努力願いたい。

##### (2) 成果

###### ①大学改革への取組

- ・東京医科歯科大学、東京工業大学及び一橋大学と協力して、それぞれの得意分野を活かし研究における連携を推進し、かつ融合発展させることを目的に発足した「四大学連合ポストコロナ社会コンソーシアム」の活動を本格化させ、講演会、異分野研究交流イベントなどを実施したこと。
- ・オンライン・オンデマンド型科目として、学生のペースで学修を進めることができるレベル別の英語科目を8科目開設し、多くの学生が受講していること。
- ・大学の国際的展開のための遠隔教育の拠点形成「「JVキャンパス」（正式名称：日本発オンライン国際教育プラットフォーム「Japan Virtual Campus（仮称）」）（幹

事校：筑波大学) 及び国際共修ネットワーク (正式名称：国際共修ネットワークによる大学教育の内なる国際化の加速と世界展開) (幹事校：東北大学) に参加し、大学連携による共同教育の実現にむけたプロジェクトに参画したこと。

- ・英語・日本語・多言語テストの開発・実施拠点として新たなプロジェクトを推進する、LINGUA Test Center を発足させること。
- ・東京農工大学、電気通信大学と共同で設置する大学院博士後期課程「共同サステナビリティ研究専攻」をより充実させていくための研究プロジェクトとして、共同サステナビリティ国際社会実装センターという新しいプロジェクトを立ち上げたこと。
- ・本学の研究の文理協働体制の強化、及び研究成果にもとづく社会実践の強化を図るため、全学研究組織として「フィールドサイエンスcommons (TUFiSCo)」という新しい組織を立ち上げること。
- ・外部資金獲得を促す支援策として、申請調書への事前レビュー・アドバイジングによる申請調書の質の向上等に努め、科研費の採択率を高水準に保っていること。

## ②財務

- ・企業の社内教育など、社会貢献事業の実施による増収を図るとともに、「オープンアカデミー」をオンラインにより活性化することで社会貢献の拡大とあわせて受講料の増収を図ったこと。
- ・2020年度の財務報告を含めた「統合レポート」を作成し、Web上でも公開し、学生・保護者を含むステークホルダーに対し、財政的な説明を行ったこと。

## ③中期目標・中期計画、及び年度計画

- ・中期計画を順調に達成していること。

## ④学長のガバナンス

- ・四大学連合の枠組み中で東京医科歯科大学から医療従事者の派遣等の協力を受けて、ワクチン接種を早期に実施し、秋から実渡航を伴う留学を再開したこと。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響により、短期間の派遣留学生には JASSO から奨学金が支給されない特例的な措置がとられ、該当する学生に対して、大学基金から支援したこと。併せて、生活に困窮する学生に対し、本学独自の制度での学費免除の実施、外語会からのご支援を得て 100 円朝食、100 円弁当、またフードパントリーなどの取り組みを行ったこと。
- ・卒業生への情報発信強化を目指し、2021年度には、2003年度以後の卒業生に対し『統合レポート』などを配布し、アラムナイデータベース「東京外国語大学同窓生情報データベースシステム」の構築を開始したこと。

## ⑤大学のコンプライアンス

- ・インシデントの発生に迅速に対応するとともに、教職員に対し適切な啓発を行っていること。
- ・公正な研究活動をより一層推進するために、研究倫理・コンプライアンスに関する研修等を実施したこと。